

# 全木連時報

12月25日(月曜日)  
(第585号)(毎月25日発行)  
平成18年(2006年)

発行所  
社団法人 全国木材組合連合会  
編集長 後藤隆一  
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215  
URL http://www.zenmoku.jp



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

【全木連時報】の購読料は年会費に含まれています。

## 全木連 理事会・臨時総会開く 全木協連

### 役員補充、規程の制定など承認決定

全木連、全木協連は、十一月十七日、東京虎ノ門パストラルで、それぞれ理事会、臨時総会を開き、平成十八年度補正予算、役員補充など所定の議案をすべて承認・決定した。このほか、中間決算見込み、副会長の選任、全木連では諸規程の改正、制定、全木協連では共済制度の推進などについて審議し、承認・決定した。また、引き続き、政治連盟の常任委員会を開き、役員補充、参議院議員選挙候補者の推薦ほか活動状況を報告した。

### 全木連理事会・臨時総会

全木連の会議は午後一時から開き、冒頭、この秋の叙勲・褒章受章者を事務局より紹介し、出席者全員の拍手で祝福した。

次いで、庄司会長が挨拶に立ち、「木材産業振興大会は大変成功裡に開催できた。関係者の努力に感謝する。また、合法木材の供給体制を育てていく。木づかい運動にも真剣に対応していく。」と強調した。

その後、庄司会長を議長として議事が進められ、最初に総会事項

を審議した。

まず、平成十八年度補正予算を事務局説明を受けて原案どおり承認決定した。役員補充は、本年五月の総会以降、各会団の役員異動に伴うもので、次のとおり決定した(敬称略、カッコ内は前任者・所属)

理事 小笠原弘(三津橋貞夫・北海道)、山口武夫(篠崎昌平・栃木)、和南城純一(平方力・群馬)、小高茂(並木瑛夫・千葉)、後藤直剛(瀬上和雄・岐阜)、野瀬宇一郎

(鳥居治夫・滋賀)、辻井重(茶谷孝一・京都)、田口太望(丸直・奈良)、新井淳親(平山茂雄・大分)、佐々木幸久(横小路喜代治・鹿児島)、高良光秀(久高晃・沖縄) 監事 細田安治(小高茂・日集協) 理事会では、平成十八年度中間決算見込みを承認。

次に、海外出張旅費規程の一部改正、内部組織規程の一部改正、役員等慶弔見舞規程の制定について承認決定した。

次いで、理事交代に伴う副会長の選任を行い、北海道支部、関東支部からの推薦にもとづき、次のとおり決定した。(敬称略、カッコ内は前任者・所属)

副会長 小笠原弘(三津橋貞夫・北海道)、坂東正一郎(平方力・関東)

このほか、以下の二十二項目の報告を行い、会議を終了した。

- ① 違法伐採対策への取組みの状況 ② 木材安定供給圏域システムモデル事業 ③ 森林を育む木の住まい普及推進事業の進捗状況 ④ 木づかいコーディネーター ⑤ 製材等の

### 目次

- 一面 全木連・全木協連理事会・総会を開き役員補充など所定の議案を承認決定
- 二面 外材委員会を開催 農林水産祭で木材PR
- 三面 米国木材業界と懇談 気仙木材加工協組連が天皇杯受賞
- 四面 国産材委員会 景況調査

- 「登録格付機関」に対して農林水産消費技術センターが実施した定期調査の結果に対する是正措置への対応 ⑥ 全木協 製材等の「登録認定機関」への登録 ⑦ 外国人研修制度を取りまく状況とその対応 ⑧ 新たな森林・林業基本計画の策定
- ⑨ 木材産業の体制整備及び木材市場の形成・拡大に向けた基本方針検討委員会の開催 ⑩ 地域材を利用した住宅建設促進のための地方単独事業の推進 ⑪ 公共調達の適正化
- ⑫ 住生活基本計画(全国計画)の概要 ⑬ 建築物の安全性確保のための建築行政のあり方 ⑭ (独) 農林漁業信用基金の林業信用保証の見直し当初案 ⑮ 「減価償却資産の使用実態調査」への協力 ⑯ 我が国のEPA/FTAをめぐる状況 ⑰ 住宅供給事業者等との懇談会 ⑱ 木づかい応援団の農林水産大臣表敬訪問 ⑲ 平成十九年度税制改正要望等
- ⑳ 第四十一回全国木材産業振興大会における宣言決議への対応状況 ㉑ 第四十二回全国木材産業振興大会の開催 ㉒ 平成十九年度全国会議日程について。

### 全木協連理事会・臨時総会

全木協連の会議は、全木連に引き続き開かれ、予定より早く午後二時三十分より開始した。

まず、並木会長が挨拶し、「中小企業を取り巻く景況は依然と厳しいが、国産材への関心が高まってきた。このような時こそ国産材の安定供給に取り組むことが必要。

全木協連の上期の事業は、ほぼ計画どおりに進んでいる。さらに下期に向けて努力したい。共済事業を中心に会員の協力をお願いしたい」と述べた。その後、並木会長が議長となり、議事を進めた。

まず、総会事項として、平成十八年度補正予算を事務局の報告を受けて承認決定した。役員補充は、五月の総会以降の会員団体の役員異動に伴い、次のとおり決定した。(敬称略、カッコ内は前任者・所属)。

- ▼理事 小笠原弘(三津橋貞夫 北海道)、山口武夫(篠崎昌平・栃木)、和南城純一(平方力・群馬)、後藤直剛(瀬上和雄・岐阜)、谷口昇(熊川正子・滋賀)、辻井重(城山泰一・京都)、田口太望(丸直・奈良)、新井淳親(平山茂雄・大分)。
- ▼副会長 小笠原弘(三津橋貞夫 北海道)。

算見込③中型グループ共済加入促進④木材産業高度化総合対策事業(再編整備事業)の事業終了に伴う措置⑤役員等慶弔見舞規程の制定について、それぞれ順次事務局より報告のうえ、承認決定した。次いで、理事交代にともなう副会長の選任を行い、北海道ブロックからの推薦にもとづき、次のとおり決定した。(敬称略、カッコ内は前任者・所属)。

このほか、①第四十二回全国木材産業振興大会の開催②平成十九年全国会議日程③中小企業等協同組合法の改正について報告し、会議を終了した。

### 全木連外材委員会を開催

全木連は、十二月五日に「外材委員会」を開催し、最近の動向について情報交換した。

外材委員会は、全木連の各支部単位から推薦された委員により構成された委員会である。

開会に次いで、本会議の主要議題である各地の情勢について、各委員より報告があった。入荷量の減少、フレイトを主体としたコスト増など、いずれも今までの外材の状況とは様変わりした現状の報告であった。

また、意見交換では、外材についてのみでなく、国産材の供給体制のあり方についても、踏み込んだ意見が交わされた。

次いで、林野庁の森田木材貿易対策室長から、WTO、FTA・EPAの最新状況について説明があった。

このほか、全木連から、①合法木材の供給体制の状況②米国木材団体との懇談会の概要について報告した。

### 農林水産祭で木の良さをPR

#### 親子日曜大工教室・

#### 糸鋸工作教室を開催

農林水産省と(財)日本農林漁業振興会主催の平成十八年度(第四十五回)農林水産祭「実りのフェスティバル」が十一月十七日及び十八日の二日間、東京都江東区有明の東京国際展示場(東京ビックサイト西三ホール)で開催された。

初日には、秋篠宮さまがご視察された。天候にも恵まれて期間中の入場者は十七日約二万一千人、十八日約二万六千人であった。

農林水産祭は、農林水産省と、

一般国民が共に収穫を喜び、農林水産業に対する理解と関心を高め、農林水産物の消費拡大を図るため、都道府県、中央・地方の農林水産団体が協力して毎年十一月に開催しているもの。

会場では、政府特別展のほか、農林水産団体の展示・即売と、都道府県による郷土農林水産物の展示・即売等が行われた。

このフェスティバルの林産部門として全木連が世話役となり、木



盛況の親子日曜大工教室

材利用推進のPRの場所として、各種のパンフレットを配布すると

ともに、関係団体及び関係機関の協力を得て、次の催し物を行った。

#### 参加団体(十三団体)

- ①全国木材組合連合会、全国森林組合連合会、全国天然木化粧合単板工業協同組合連合会、全国木材防虫JAS協議会、全国木造住宅機械プレカット協会、(財)日本合板検査会、日本合板工業組合連合会、日本集成材工業協同組合、(財)日本住宅・木材技術センター、日本特用林産振興会、日本複合床板工業会、日本木材防腐工業組合、(財)日本木材総合情報センター。

#### 協力機関

関東森林管理局東京事務所、日本日曜大工クラブ。

#### 「親子日曜大工教室」

日曜大工クラブの会員が指導にあたり、縁台、踏み台、椅子等あらかじめキット加工したものを製作した。無料とあって参加希望者が多く、人数制限をするほどの盛況であった。

#### 「糸鋸工作教室」

関東森林管理局東京事務所の指導により、原板に描いた動物画を糸鋸でくり貫いて製作する「糸鋸教室」も親子に大変好評であった。

なお、政府特別展の天皇杯コーナーには、林産部門として天皇杯を受賞した岩手県陸前高田市の気仙木材加工協同組合連合会の展示が行われた。

# 米国木材業界代表と懇談

## 需給や貿易の情報を交換

毎年恒例となっている、A F & P A (全米林産物製紙協会) をはじめとするアメリカ木材業界の視察団と日本の木材産業・林業関係団体との会合が十一月七日に都内で開催された。今回は四回目の開催となり、米国側が二十名、日本側は庄司全木連会長ほか十六名が出席した。

これに対して、次のとおり、質疑応答があった。

疑念答があった。

岡全木連で事業者認定のサービ

氏(アメリカ側視察団代表、ウェアハウザー・アジア・リミテッド

# 気仙木加連(岩手県)が

## 天皇杯を受賞

平成十八年度の第四十五回農林水産祭林産部門で、岩手県陸前高田市の気仙木材加工協同組合連合会(理事長 佐々木英一氏)が天皇杯を受賞した。

これは、同連合会が、全木連等が主催した平成十七年度の第三十三回 J A S 製材品普及推進展示会において、農林水産大臣賞を受賞し、その実績が評価されたもの。

J A S 展示会出品者の林産部門「天皇杯受賞は、平成十六年度に次いで、これで六社目になる。受賞の式典は、去る十一月二十三日に東京で行われた。

○全国で約二万社ある全木連の末端の事業体は、それぞれが所属する地方の団体から認定を受けることになる。全木連が認定できるのは会員である地方の団体(県木連)で、木材販売等の事業を行っている団体を認定した。

次に、ワシントン大学教授・木材製品国際貿易センター(C I N T R A F O R ) 所長のアイバン・イーストン氏より、米国の住宅着工と木材需要について次のような説明があった。

米国の住宅着工戸数は、順調な伸びを示しており、2005年実績では、三十五年ぶりの高水準(二百万户)となった。主として住宅用構造材として使用されている針葉樹の製材品の消費量は、1990年代初頭より年間三・五%の伸びを示しているが、生産量は年間〇・九%の伸びにとどまっている。これは、輸入量が増えているためであり、特に欧州(ドイツ、スウェーデン等)からの輸入量の増加が大きい。この傾向は今後も続くと思われる。日本市場においても、欧州材の輸入増加が長期的に続いている。米国の合板、OSBの市場においては、傾向として、OSBは住宅用、合板は工業用・リフォーム等のニッチ市場と用途が分かれている。

これに対して、次のような質疑応答があった。

岡カナダや欧州から来る木材に

度は米国にはあるか。

○政府としての表示制度や政府調達で合法性を求めるといった政策的なものはない。民間企業(ホームデポなど)では原産地表示の独自の制度を作っているところはある。

○中国との貿易の状況は。

○中国からは、主に広葉樹合板が輸入されている。近年輸入量が増えているが、主用途は非構造用である。規格のラベル等が貼られているわけではないので、輸入する側としては、品質等に注意する必要がある。

○認証制度についての現状は。

○州有林では認証スキームとしてF S C を受けるところが多いが、民有林(社有林)では、S F I が多い。認証材に対する消費者の認識はあまり高くない。コスト高となる点については、環境に優しい認証材というよりは、むしろしっかり管理された森林から産出されたという点で認証材をアピールして販売している。

次いで、米国西部木材製品協会

会長マイケル・オハララン氏より、米国の自然火災についての説明があった。これは、空気の乾燥という自然条件と不十分な山林の管理ということが重なり、被害を大きくした原因と考えられる。ただし、木材産業についてみれば、生産に支障をきたすほどではない、との説明があった。

これについては、次のとおり、

### 企業経営に安心を提供します

### 全木連グループの各種保障制度

おかげさまで30年

中型グループ

などの備えに ケガ・病氣入院	従業員のために	中型グループ	総合賠償補償制度	第3者への事故対策に	
	経営者のために	大型	各総合保障プラン	木退共	従業員の退職金の準備に
		L型		積立終身	経営者の退職金などの準備に
	無配当型				

### 全国木材協同組合連合会

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3  
TEL 03-3580-3215 (代)

景況調査=全木協

18年11月分集計表 ( )内は実数

〔流通部門〕

モニター数58 回答数46 回収率79%

当月の状況

販売量	増加33% (15)	変わらず48% (22)	減少19% (9)
仕入量	増加26% (12)	変わらず52% (24)	減少22% (10)
販売価格	上昇70% (32)	変わらず30% (14)	下降0% (0)
仕入価格	上昇89% (41)	変わらず11% (5)	下降0% (0)

来月の見通し

販売量	増加26% (12)	変わらず57% (26)	減少17% (8)
仕入量	増加24% (11)	変わらず61% (28)	減少15% (7)
販売価格	上昇63% (29)	変わらず35% (16)	下降2% (1)
仕入価格	上昇76% (35)	変わらず22% (10)	下降2% (1)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	61% (27)	34% (15)	5% (2)
南洋材	70% (28)	25% (10)	5% (2)
北洋材	80% (33)	20% (9)	0% (0)
国産材	49% (21)	44% (19)	7% (3)
建材	54% (21)	38% (15)	8% (3)

乾燥材取引の頻度	増加 28% (13)	変わらず 72% (34)	減少 0% (0)
----------	----------------	------------------	--------------

〔製造部門〕

モニター数102 回答数75 回収率74%

当月の状況

販売量	増加34% (25)	変わらず45% (33)	減少21% (15)
仕入量	増加36% (26)	変わらず39% (28)	減少25% (18)
販売価格	上昇40% (29)	変わらず60% (43)	下降0% (0)
仕入価格	上昇70% (49)	変わらず26% (18)	下降4% (3)

来月の見通し

販売量	増加20% (14)	変わらず60% (43)	減少20% (14)
仕入量	増加26% (18)	変わらず47% (33)	減少27% (19)
販売価格	上昇31% (21)	変わらず69% (47)	下降0% (0)
仕入価格	上昇52% (36)	変わらず44% (31)	下降4% (3)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	69% (27)	31% (12)	0% (0)
南洋材	70% (19)	26% (7)	4% (1)
北洋材	76% (25)	24% (8)	0% (0)
国産材	59% (34)	41% (24)	0% (0)

プレカットの動向

受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内 76% (16)	1ヵ月 19% (4)	1ヵ月以上 5% (1)
---------------	-------------------	----------------	-----------------

全木連国産材委員会を開催

質疑応答があった。  
 岡米国北西部の水害の影響は。  
 嘗特にワシントン州で水害の被害が大きいのが、木材業界には大きな影響は無い。

最後に、アメリカ側代表マイケル・トンブソン氏より、今後このような話し合いの場を設けて、継続的に交流を図っていききたい旨の挨拶があり会合を終了した。

全木連は、十一月三十日に「国産材委員会」を開催し、国産材を取りまく問題点などについて情報交換した。同委員会は、ここしばらくの間、開催がなかった。最近の国産材事情の変化に対応しての開催である。全国から委員十二名が出席した。

開会に次いで、早速、国産材関連企業の現状と問題点について各委員より報告があった。次いで、現在、林野庁で検討されている「木材産業の体制整備及び木材市場の形成・拡大に向けた基本方針」

製材業においては、大型工場化が進む一方で、中規模工場にあっては独自路線も見られるほか、小規模工場では、いわゆる「顔の見える」路線が進んでおり、それぞれの方向性が分かれてきた。このような現状から、中小への手厚い対応がますます必要になっていくという意見もあった。

全国的な共通課題として、スギ合板の好調さを反映して、製材用丸太の集荷難が複数の委員から報告された。また、国産材供給の問題点として山林における伐出技能者不足による出材不足も指摘された。

林業・木材産業発展のために

お役に立ちます 林業・木材産業信用保証

平成16年6月からスタート!

「グリーンサポート3000」

一定の要件を満たした保証申込みにスピーディに応える無担保保証です。

独立行政法人 農林漁業信用基金 (林業部門)

副理事長 加藤 鐵夫

〒101-8506 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階

TEL 03-3294-5581 FAX 03-3294-5595

URL http://www.affcf.com/forestry